

志位和夫委員長を講師に「Cゼミ」 新型コロナ危機をどうとらえるか

Cゼミで若者たちの質問に答え語り
合つ志位和夫委員長（正面）。

7月18日・船橋市内



日本共産党の志位和夫委員長を講師に迎えた「船橋社会科学ゼミナール」（略称・Cゼミ）第2回が7月18日、開かれました。テーマは『ポストコロナ』

——日本と世界のあり方を考える。志位委員長は、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）を通じて明らかになった日本と世界の問題を縦横に語り、「たたかってこそ、新しい未来をつくることができる」と強調しました。また「どういう姿勢でこの困難に立ち向かうか」として、①新型コロナから国民の命とくらしを守り抜くために知恵と力を尽くす、②今回の事態を科学の立場でとらえてどういう日本と世界をつくるかという展望を持つという二つ大事な点があると指摘しました。

質疑応答では、コロナ危機でのジェンダー問題についての質問に、「医療・介護・障害福祉・保育などケア労働を劣悪な条件で担っているのは女性が多い。多くの場合、家庭でのケアも女性にそのしわよせが強いられている」として、新型コロナで女性は二重に犠牲が強いられていることが浮き彫りになり、ジェンダー平等の重要性が明らかになったと指摘しました。

「こんなひどい政治見たことない」 安倍内閣退陣スタンディング400回

2018年3月、公文書の改ざんを強制されて近畿財務局職員が自殺に追い込まれる事件が起きました。これを知った女性が「自分の国会答弁がきっかけなのに責任を取らない安倍総理は許せない。船橋でも声を上げたい」とSNSで発信したことから始まった船橋駅南口での「安倍内閣退陣求めるスタンディング」が7月23日で400回目となりました。

参加者は、「安倍内閣は総辞職を」「安倍政治を許さない」などのプラカードを掲げ、マイクを渡しながらいのちや支持者にばかり顔を向け、税金さえ提供する安倍政治はひどすぎます。と話し

400回目の安倍退陣スタンディング参加者 左は丸山慎一前議員
7月23日・JR船橋駅南口



一刻も早くやめさせましょう」と訴えました。立ち止まって聞いていた60代の女性「戦後日本でこれほどひどい政治を見たことがありません。それを変えようとする宣言が2年半も続いているのはすごいことです」と話しました。

西船地域で日本共産党のつどい 「資本主義は限界だと感じている」

つどいで話す丸山慎一前議員（正面）と松崎佐登市議（その右）。

7月19日・船橋市内



日本共産党西船地域後援会が「議会報告会」を開きました。丸山慎一前県議はオスプレイの木更津配備が強行されたことについて詳しく

報告しました。

7月10日に木更津配備が強行されたオスプレイは、試験や調整が済めば、毎日のように船橋市にある習志野演習場に飛んできて訓練を行うことになります。世界各地で繰り返し墜落事故を起こしているオスプレイの訓練中止・配備撤回のために声をあげましょうと呼びかけました。

また、志位和夫委員長が行った日本共産党創立98周年記念講演の内容にふれ、コロナ後の日本と世界のあり方について提起。新型コロナを通じて“何でも競争すればうまくいく”“何でも規制緩和一辺倒”のやり方でいいのかが問われていると指摘。いまの資本主義社会について山際寿一京大総長が「コロナ禍のなかで誰もが資本主義は限界だと感じているのではないか」と語っていることを紹介して、「資本主義の次の社会の在り方について多くの人が考え始めている」と話しました。

オスプレイ飛来予定の習志野演習場を一周して抗議

日本共産党は7月24日、オスプレイ木更津配備に抗議して、「習志野演習場一周抗議宣伝」を行いました。配備によって毎

日のように習志野演習場での訓練が想定されているためです。



午前10時に北習志野駅を出発。実籾駅、八千代台駅、八千代緑が丘駅を回って夕方、再び

呼びかける（右から）坂井洋介・金沢和子両市議、丸山慎一前議員。

7月24日・北習志野駅

習志野演習場の訓練が想定されているためです。午前10時に北習志野駅を出発。実籾駅、八千代台駅、八千代緑が丘駅を回って夕方、再び